

【新潟大学】学内システムの負荷軽減・学生からのアクセスを容易にする授業実施

【背景・目的】

学内システムの負荷軽減・学生からのアクセスを容易にするYouTube授業を実施。

【取組内容】

YouTubeに動画をアップ（URLは学習管理システム（LMS）上で通知）。学生は動画（大学メールアドレスのユーザーのみ閲覧可能）を視聴し、動画に埋め込まれたワードや講義内容に答える出席レポートを指定期日までにLMS上に提出。出席レポートに書かれた質問には次回の動画で回答。成績評価のための課題も別途出題し、LMS上で提出。

【結果・効果】

- ・学生のPC環境・通信速度等に左右されない授業環境の構築が可能。
- ・繰り返し視聴して理解を深めることができる（対面授業にはない効果）。
- ・出席率は高く、コメント・質問は質量ともに良好で授業回ごとに理解度を測ることが可能。質問を精選し次回講義の中に位置づけ説明・解説。
- ・学生の質問を講義に取り入れることで学習意欲を向上させる効果が期待できる。

YouTubeでの講義提示画面



【新潟大学】討論でアクティブ・ラーニングを加速するオンライン講義と授業研究の取組

【背景・目的】

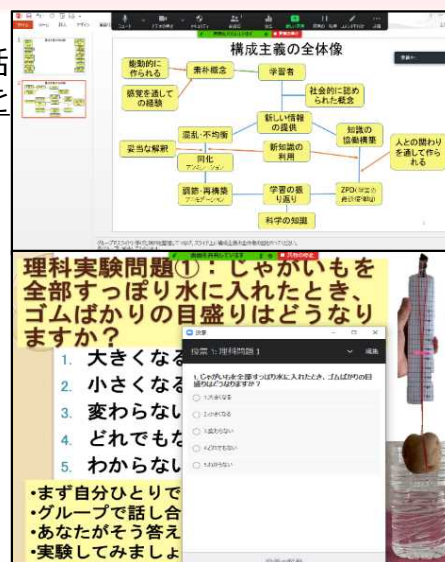
情報伝達に限定されがちなオンライン多人数講義において、小グループの話し合いを主に授業構成することにより、遠隔でもアクティブ・ラーニングを通して概念構築を促す実践を行っている。

【取組内容】

- ・受講生136名の理科教育法の講義，Zoomによるオンライン授業を実施。
- ・ブレイクアウト・セッションを利用した28のグループ別話し合い。
- ◎Zoom講義に他大学教員が参加し，学生の話し合いを直に参観した後，「学生の困難と教授法」をテーマにオンラインによる授業研究を実施。

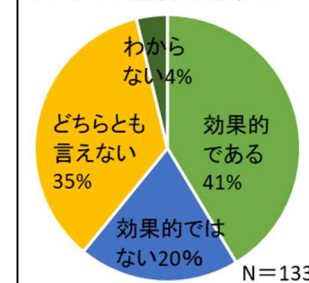
【結果・効果】

- ・オンライン画面上での対面，画面共有による緊張感あるグループ討論。
- ・画面上の操作や投票を伴った討論の視覚化（右図①）による理解の促進。
- ・高い出席率-課題提出率：各回98-100%，「効果的」の回答：41%（図②）。
- ・学習成果：「指導内容が学生自身の言葉でよく語られている」（図③）。
- ・オンライン授業研究で，居ながらにして全国から助言を得て授業改善。



←①(上)画面共有でラベルを移動させて協働マップ作成(下)投票機能を用いて理科問題に解答

オンライン講義は効果的か



↑②中間アンケート結果

←③振り返り記述より頻出語の分析：トピックの「構成主義」を中心にキーワードが結束

